

①

██████████ ████████ 男 77歳 〒██████████ ████████ 東京都国立市 ████████
██████████
テレ ████████████████████

関東地方整備局 御中

工事整備計画 19120726129、本館=ア

②

川は、単なるものなのか。河川官僚の皆さん、あなたがお生まれの時の、産湯のことを思い出してください。この命の水は、あの生きた河川、生命のあふれた生態系なしに存在しません。そして、言うまでもなく、山の森林なしにわたしたちの生命活動は存在しません。川は、人間だけのものではなく、昔の利根川は、はるかに豊饒な生き物たちがいた。信濃川はそのむかし、サケの川でした。5万尾のサケが松本でとれた記録がある。

特に、巨大都市中心の、近代化と開発の影には、技術という名の、経済優先主義、自然破壊がまかり通ってきたのではないのでしょうか。この構図は、基本的に、福島原発と東京の関係、都市と農村の関係として、信濃川の宮中ダムと東京の山手線の電力の関係と同様です。この点私たちの暮らしや生産のありようを反省しなければならないでしょう。

しかし、エネルギーや河川は、国のありよう、基本構造に深くかかわります。国の公共政策として展開されるからです。

利根川・江戸川河川整備計画の検討に当たり、いくつかの要望をしたい。争点や論点は多々あるが、基本は、97年河川法の改正の理念・精神をより前向きにして、お考えいただきたい。

- 1 利根川流域全体の河川整備計画にしてください。
- 2 論点や争点のあるものに関しては、より十分の時間をかけて検討すること。
- 3 科学的合理性、社会的合理性を大事にしつつ、地球時間で考察されたい。
- 4 流域住民の意見を尊重されたい。聞き置くだけでなしに、対話と反映を。
- 5 治水、利水ともに再検討されたい。
- 6 リスク論について、専門家の検討会議を新たに設けられたい。特に、地層、地崩れ地震などの評価がある。
- 7 生物多様性の戦略の尊重は時代の常識、アユやウナギ、植生などの生態系との平和的共存
- 8 特に、「有識者会議の9回の中断」と素案の公表は、歴史に残る不明瞭な措置になりかねない。反省されて、善処されたい。対話の中止と科学論の放棄は歴史にのこる「事件、無責任」のそしりを逃れまい。だれも責任を取らないシステムなのか。会議のありようについても再検討されたい。
- 9 川は、公共のもの。地域の人々と民意と相談しながら、よりいいものごしませんか。たとえば、浸水や水害は地元でないとわからない。歴史と事実を大事にしながら流域住民と胸襟を開いて川づくりをしてください。あなたがたの専門性が光りますよ 例えば多摩川の成功事例を思い出してください。
- 10 TVA法は、偶然にできたものではない。むしろ、新たな国家政策により慎重につくり出されたものであった。史上初めて、河川の資源が「その全体を顧慮される」ようになったばかりか、自然の資源の統一性にもとづいて開発されるようになったことである。この統一性とは、水・土地・森林をいつしよにしたものである。(リリエンソール)

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[Redacted]	
②住所		(都道府県名) 群馬県	(市区町村名) 前橋市
③電話番号又はメールアドレス		[Redacted]	
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input checked="" type="checkbox"/>
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>首都圏の水の需要は毎年減っている。 この先、人口の減少とともに、生活面でも水の需要が増えることはあり得ない。</p> <p>浅間山の火山活動が活発化している中で、 群馬を流れる利根川流域住民により過大な被害を与えることとなる。</p> <p>飲用水としての不適格な水が山から出てくる ほとんど意味がなくなり、 品木川での強酸性生水の改善による廃棄物は環境汚染をおこなっている。</p> <p>八ッ場ダムは国民のためというが、土木業界の ためのダムと言わざるを得ません。</p>	

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

① 氏名	[REDACTED]		
② 住所	(都道府県名) 千葉県	(市区町村名) 我孫子市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・ <input checked="" type="checkbox"/> 60歳以上	⑤性別	<input checked="" type="checkbox"/> 男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>1 利根川水系全体の河川整備計画を立てるべきだ。 今回原案は利根川・江戸川の本川のみが対象となっていますが、渡良瀬川、鬼怒川、霞ヶ浦などの支線を含め利根川水系全体で治水、利水、環境でバランスのとれた統合的な計画の樹立。</p> <p>2 目標流量17,000m³/秒は過大ではないのか。 原案が目標としている17,000m³/秒は、1947年カスリーン台風の再来計算21,000m³/秒を算出した洪水流出モデルを使って、治水安全度1/70～1/80に相当する流量を求めた値であると言われている。しかし、この値に対しては異論があり、実績は15,000m³/秒程度であるとされている。 今までの整備計画の目標は1万5千m³/秒であった、なぜ引き上げられるのか多くの学者等の意見を誠実に科学的に聞くべきである。カスリーン台風時を除く、利根川の最近60年間の最大洪水量は平成10年9月発生9,958m³/秒である。引き上げる理由はないと考えられる。</p> <p>3 ハツ場ダム・南摩ダムについて 堤防改修工事について ハツ場ダムの治水効果は計算によると、ほとんど認められないとされている、また、水道用水等の都市用水の水需要は東京都・千葉県等でも減少している。治水からも、利水からもほとんど必要のないハツ場ダム計画は中止し、現状の河道整備・堤防の安全性の向上に経費を優先して使用することを要望したい。 堤防の整備事業に当たっては、安価で効率的な、鋼矢板やソイル連続地中壁を採用して過大な費用を要するスーパー堤防等はやめるべきであると思います。 南摩ダムについては、水需要がほとんどない現状であると考えられるので正しく厳しく現状を認識して対応してください。</p> <p>4 田中調節池、稲戸井調節池、想定を超える洪水対策について 整備計画の目標として、稲戸井調節池では池内掘削を推進し、田中調節池においては溢流堤の移設を行うとなっているが、池内掘削は自然を破壊することにならないのか、地元の見解、環境等に配慮して中止を検討要望したい、田中調節池は10年間に1度の確立時で洪水量が流入するように計画されているようです。すなわち10年間に1度しか洪水被害はなく9年間は農作物等が豊かに収穫でき、各種の土地利用も可能である。これらの方法こそ最小限の経費で最大の効果を発揮できる洪水対策であると考えております。 しかし、田中調節池には国交省からの作物保障制度はない、補償制度を確立されることを要望したい。さて、利根川においても想定を超える大洪水が起こるもあると思います。そのような対策として予算も限られ厳しい財政事情を考え、ダム等の莫大な経費を使うことなく、現実に実施可能である、越流することがあっても直ちに決壊しない（耐越水堤防）に変更することは肝要なことである、また、積極的に利根川沿岸で調節池が可能であるか調査検討し、調節池を築造することを要望したい。2013年2月27日</p>	

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

① 氏名	[REDACTED]		
② 住所	(都道府県名) 千葉県	(市区町村名) 我孫子市	
③ 電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④ 年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤ 性別	男性・女性
意見該当箇所	⑥ ご意見		
章	(意見ごとにとできるだけ200字以内で記載してください)		
頁	<p>1 利根川水系全体の河川整備計画を立てるべきだ。 今回原案は利根川・江戸川の本川のみが対象となっていますが、渡良瀬川、鬼怒川、霞ヶ浦などの支線を含め利根川水系全体で治水、利水、環境でバランスのとれた統合的な計画の樹立。</p> <p>2 目標流量17,000㎥/秒は過大ではないのか。 原案が目標としている17,000㎥/秒は、1947年カスリーン台風の再来計算21,000㎥/秒を算出した洪水流出モデルを使って、治水安全度1/70～1/80に相当する流量を求めた値であると言われている。しかし、この値に対しては異論があり、実際は15,000㎥/秒程度であるとされている。 今までの整備計画の目標は1万5千㎥/秒であった、なぜ引き上げられるのか多くの学者等の意見を誠実に科学的に聞くべきである。カスリーン台風時を除く、利根川の最近60年間の最大洪水量は平成10年9月発生の9,958㎥/秒である。引き上げる理由はないと考えられる。</p> <p>3 八ッ場ダム・南摩ダムについて 堤防改修工事について 八ッ場ダムの治水効果は計算によると、ほとんど認められないとされている、また、水道用水等の都市用水の水需要は東京都・千葉県等でも減少している。治水からも、利水からもほとんど必要のない八ッ場ダム計画は中止し、現状の河道整備・堤防の安全性の向上に経費を優先して使用することを要望したい。 堤防の整備事業に当たっては、安価で効率的な、鋼矢板やソイル連続地中壁を採用して過大な費用を要するスーパー堤防等はやめるべきであると思います。 南摩ダムについては、水需要がほとんどない現状であると考えられるので正しく厳しく現状を認識して対応してください。</p> <p>4 田中調節池、稲戸井調節池、想定を超える洪水対策について 整備計画の目標として、稲戸井調節池では池内掘削を推進し、田中調節池においては溢流堤の移設を行うとなっているが、池内掘削は自然を破壊することにならないのか、地元の意見、環境等に配慮して中止を検討要望したい、田中調節池は10年間に1度の確立時で洪水量が流入するように計画されているようです。すなわち10年間に1度しか洪水被害はなく9年間は農作物等が豊かに収穫でき、各種の土地利用も可能である。これらの方法こそ最小限の経費で最大の効果を発揮できる洪水対策であると考えております。 しかし、田中調節池には国交省からの作物保障制度はない、補償制度を確立されることを要望したい。さて、利根川においても想定を超える大洪水が起こるもあると思います。そのような対策として予算も限られ厳しい財政事情を考え、ダム等の莫大な経費を使うことなく、現実実施可能である、越流することがあっても直ちに洪壊しない（耐越水堤防）に変更することは肝要なことである、また、積極的に利根川沿岸で調節池が可能であるか調査検討し、調節池を築造することを要望したい。2013年2月27日</p>		

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[Redacted]	
②住所		(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) さいたま市桜区 [Redacted]
③電話番号又はメールアドレス		[Redacted]	
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・ <u>50代</u> ・60歳以上	⑤性別	男性・ <u>女性</u>
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>利根川は、本川に注かれる支流が非常に多くあります。それらの支流を含めた水系全体の河川整備計画を策定していくには、十分な検討が必要です。</p> <p>本川に注ぐ支流の整備計画を先行して策定することは、科学的見地から不合理であると考えます。</p> <p>又、有識者会議にて、委員からカストン台風時の氾濫図に疑問が示されていますが、あいまいなまま、目標流量を決められたことは、流域住民の意見を無視する事に正しく、河川法に違反する行為です。</p> <p>流域面積、流域住民の多い利根川の河川整備計画は、必ず丁寧に策定すること、利根川流域住民の生命、財産を守ることに続き、関東地方整備局の使命です。</p> <p>ハコダツダム建設にこだわることなく、利根川水系河川整備計画の策定を求めます。</p> <p>したがって、この原案は廃棄し、策定し直すことを強く求めます。</p>	

差出人: [REDACTED]
送信日時: 2013年2月27日水曜日 18:38
宛先: tone-plan3@ktr.mlit.go.jp
件名: 件名に「利根川・江戸川河川整備計画（原案）」について

意見募集 事務局御中

永い間ご検討されご苦労様です。

首記の件について色々ご苦労されているようですがバブル時代に計画されたものを一部修正され再提案されいるだけで先輩の顔をつぶさないよう配慮されているようですが

今は東北地震の復興と既存施設の保守・改修に全力・全資金を投入する時期と思いません。

推進派のNPO・良識者も今度の案で従来の高規格堤防のメリットを発現できない考え、又

現場のみなさんは、もう高規格堤防(土堤)づくりは安全・安心のまちづくりに貢献しないことに

気が付き(土建業者も高値提示で)柔らかく協力拒否が始まっているのではないのでしょうか。

安くできる方法を提案してもどこかで情報が消えて採用される見込みない事業について

いけない状況に成っているのではないのでしょうか。(7H・10Hまちづくりとの分離整備案)

淀川・大和川の整備も今回の貴方案の成り行きを見ております。

~~~~~

〒 [REDACTED]  
大阪府堺市堺区 [REDACTED]

Tel / FAX : [REDACTED]

e-Mail : [REDACTED]

URL : [REDACTED]

~~~~~

「利根川水系 利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

- ①氏名 XXXXXXXXXX
- ②住所 東京都 多摩市
- ③電話番号 XXXXXXXXXX
- ④年代 60 歳以上 ⑤男性

意見該当箇所

章 頁

4.1 41

[意見]

原案が前提とする、国交省の流出モデルによる治水目標流量 17,000 m³/秒は過大である。

[理由]

国交省は、1947 年カスリーン台風の計算流量は 21,000 m³/秒で観測流量は 17,000 m³/秒としているが、そうすると両者の総流量差 1 億 m³ が溢れたことになる。しかるに、洪水痕を現地踏査で調べた氾濫量は 1 千万 m³ 程度にすぎない。

国交省の流出モデルでは過大な計算値となるのは、森林成長による保水力向上を無視しているからである。

差出人: [REDACTED]
送信日時: 2013年2月27日水曜日 21:26
宛先: tone-plan3@ktr.mlit.go.jp
件名: 利根川河川整備計画に対する意見

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画(原案)」にたいする意見

[REDACTED]
東京都八王子市 [REDACTED]
[REDACTED]

60代女性

全体に対して

日本は人口減少期に入り、首都圏の水需要も減少しています。都市用水開発が目的の八ツ場ダムはいらないと思います。

流水域全部をカバーできるわけではないスーパー堤防は巨額の費用がかかり、このツケはみな子どもたちにかかります。

自然を「征服」して人間の思うように支配しようというやり方は、きっと破綻すると思います。それより、自然環境を壊さず共生しながらいきるやり方をしていかなければ、未来に対して責任が持てません。現在生きている世代だけの利便性や経済効果で、未来の日本を台無しにするようなやり方は、もうやめるべきです。

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[Redacted]			
②住所		(都道府県名) 群馬県	(市区町村名) 高崎市		
③電話番号又はメールアドレス		〒 [Redacted]			
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑥性別	男性・女性	女性
意見該当箇所		⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)			
章	頁				
1	1	6つの中で利根川流域及び河川の概算がまとめられているが流域面積16840km ² について平均化した視点でまとめているのでそれ以外の流域の現状が全く見えてこない(河川)広大な河川空間に生息する各種生物が示されていますがそこに流れる水質の悪化は今絶滅に近いものが多いのではないかと②降水量は多いでも地味の状態が見えない③政治、経済文化を支えているがこの計画の中にそれと関係するものが見えない。由に計画全体の信頼性が欠如している)			
1	2	河川整備として治水、利水、環境だけでは、生命活動の主軸の水の役割が伝わらない。			
2	3~4	利根川流域の策定は昭和55年頃までに多く整備されたことが分かる。同時にそのから川沿いの住宅地が建設されている。かつて遊水地として機能していた活用してきた所に家を建ててしまう都市計画の現状を見れば都市部西と関係なく進められる河川整備計画は無意味なものに思われる			
3	7	河川整備の目標が都市部の水害対策やオープンスペースの確保等に片寄っているか上流の山の整備、里山の遊憩化、農業、林業の衰退対策を立てるような計画にしてほしい			
2	5	水源の安定的確保がタムづくりで適切に示しているが地下水や山林保全に農業環境を働きかけられる計画を加えてほしい。			
5	9~8	細かな計画が記されているが、凡て地域住民の声を反映することによって考えた策定のための案としか見えない地域との連携を強化してほしい			
5	14	新たな中和対策の事業化に向けた調査検討を始めるしてほしい。火山大地から流水続ける酸性水を永久に中和し続けることは不可能なため、それに土捨場に積み上げた中和生成物も、セメント固化するこにより、その中のヒ素が水溶性に溶け出して流出し環境を汚染し続ける形に変わります。その中で中和生成物の処理方法も考えない中和施設はトイレットタンクを中和することになります			

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

① 氏名	[REDACTED]		
② 所	(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) 所沢市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・ <input checked="" type="radio"/> 60歳以上	⑤性別	<input checked="" type="radio"/> 男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>20130301 利根川水系河川整備計画原案への意見 (パブリックコメント)</p> <p>2013年2月28日 埼玉県所沢市 [REDACTED]</p> <p>0. <u>はじめに</u>： ご送付頂いた膨大な「原案」に専門的な立場からコメントする知識はありませんので、1人の国民/納税者として総括して意見を申し上げます。</p> <p>1. <u>民主的な手続きに従って公正・オープンな検討を行った上で計画を策定して下さい</u>：</p> <p>「有識者会議」を1回でも傍聴すれば、<u>民主的運営とは程遠い実態</u>は一目瞭然ですが、以下具体例をいくつか挙げます。</p> <p>(1) <u>委員の人选</u>が公正ではありません。事業推進者たる国交省がご用学者を密室内で選び、予算とポストを与えて国交省シナリオのお墨付きを与える茶番の連続です。</p> <p>(2) 今回は公開されましたが、八ッ場ダムの検証会議など<u>非公開のケース</u>も珍しくありません。</p> <p>(3) 昨年9月以降の有識者会議は、民主党政権による数少ない政治主導で批判派の学者が2名（逆も1名）参加され、目標流量などの妥当性に関して科学的な疑問を出されました。行政側は説得力ある反論ができず、国交省は有識者会議を直前になって9回も中止し、<u>議論半ばで打ち切って勝手に「原案」を作成してしまいました</u>。</p> <p>(4) この種の会議では事務局の役割が大変重要ですが、有識者会議では国交省職員が勝手に仕切って長々と行政案を説明し「討議」時間を短縮し<u>予定された結論に誘導</u>するだけでした。ご用学者たちが行政の振り付け通りに尻尾を振っている実態を国民は見てしまいました。</p> <p>(5) 利根川水系河川整備計画は、本来、相互に関連する5つのブロッ</p>	

クを総合した計画です。「原案」は利根川江戸川本川だけを対象にしており、河川法の規定に準拠した「利根川水系河川整備計画」ではありません。 このまま強行することは違法だと思います。

2. 客観的且つ科学的な事実をふまえた議論を実行し、可能な限り計画に反映させて下さい：

ここでも有識者会議の実態は、科学的な事実をふまえた「議論」が行われていません。

- (1) 日本学術会議は、国交省が提示した実績/目標流量や基本高水を「一部根拠不明」と指摘しながら「全体として妥当」と評価しました。これに対して、隠されていた国交省資料を基にした科学的な疑問に対して学術会議委員は反論できず、関係ない知識を列挙した挙句、「私の論文を読めば分る」。なんという傲慢さ！何たる思い上がり！頭の悪い学者は議論に負けると「権威」に逃げ込みます。悪徳学者と権力が癒着すると悪事につながります。
- (2) 国交省は、ダム必要論を導くために、公文書を偽造し、説明資料をねつ造し、都合の良い資料は誇張、不都合な資料は隠蔽・ムシ・・・「科学的」とは対極にあります。

3. 行政運営の基本である「最小経費で最大効果」を上げる政策を目標にして下さい：

- (1) 終戦後 70 年近く経過し、その間全国に設置した膨大な基礎インフラ（道路・橋梁・港湾・トンネル・ダム・空港・学校・公共施設など）の多くは老朽化しており大規模な修理や更新時期を迎えています。先日の中央道笹子トンネルの天井崩落事故は起こるべくして起こった人災で、7名もの尊い生命が失われました。
- (2) この間、国家財政は世界にも類を見ないほどの借金王国になってしまいました。実態はギリシャより深刻です。返済義務はこれから人口が激減する将来世代の負担になります。
- (3) このような状況の下、今後の公共事業は、巨額の新規事業は原則として中止し、老朽化した基礎インフラの修理・更新を優先し、併せて可能な限りコストの安い方法を選ぶなど抜本的な見直しが不可欠です。
- (4) 原案に示された 8,400 億円は過小評価で 2 倍以上かかります。完成までに数百年かかるスーパー堤防を入れれば正確な算定はできません。有害無益且つ高価な人工建造物、例えば、八ッ場ダム・霞ヶ浦導水事業・高規格堤防、首都圏氾濫区域堤防強化事業などは即刻中止すべきです。ムダの塊である個々の事業に関しては他の論者のご指摘を参照して下さい。
- (5) 発注方法の問題もあります。多くの工事や契約が事実上の談合や天降り先への随意契約・指名入札など独禁法違反事例の状況証拠

が無数にあります。血税浪費の伏魔殿です。

4. 流域住民の安全と生活再建支援が何よりも優先して配慮されなければなりません：

- (1) 地元住民の生活再建を支援する法案を早期に立法化すべきです。
- (2) 火山の溶岩を中心とする脆弱な地盤がダムで水に浸かれば崩壊する可能性が高いことは多くの専門家が強く警告していますが、その対策は不十分です。不幸にも予想が的中した場合国交省は「想定外」「昔のことは忘れた(注)」で責任を取らずに済むでしょうが、犠牲者は住民です。(注)：奈良県大滝ダムで地元に対して「絶対安全」と断言した現場責任者がダムによる亀裂で村民が仮設住宅へ移転が避けられなくなった際、栄転先で受けたTVの取材に対する発言。
- (3) 堤防の弱い部分の補強・内水氾濫の可能性が高い場所の対策が喫緊の課題です。

5. 環境保護への配慮と文化財保護の視点も重要です：

- (1) あの美しかったハッ場ダム予定地一帯の景観は既に大量のコンクリートで切り刻まれてしまいました。この事実はもはや永遠に取り返しがつきません。
- (2) あの醜悪な人工物と富栄養化して悪臭を放つ薄汚い水を貯めたダムでは観光業はなりたちません。「原案」の環境評価は全く不十分です。日本中にできたダムと河口堰のために日本ウナギが絶滅危惧種に指定されてしまいました。
- (3) 治水・利水の必要がないことと有害・危険であることを客観的に評価すれば、流域全体をラムサール条約に登録し、同時に天明の浅間山噴火で江戸時代の生活がそのまま残った遺跡を東洋のポンペイとして世界文化遺産に登録できるとすれば、美しい日本の観光資源としても非常に意義深いことだと考えます。

6. おわりに：

- (1) 今回提起された問題は、ダム推進か反対かという単純な図式ではありません。この厳しい国家財政の下で、国民の税金をどのように使うべきかと云う国民の選択です。示された原案のような形で血税を浪費する余裕が我が国にはありません。
- (2) 利権で汚れた公共事業に対して、心ある国民は自分の時間とエネルギーと経費を使い、直接の見返りは求めず真剣に見直しを求めています。志を共有する専門家・学者・弁護士・メディア・政治家の方々の協力を得ながら努力しています。
- (3) 一方、なりふり構わず推進を画策している人々は圧倒的に利権受益者です。
- (4) 私は官僚に期待をつなぎたい。ぜひ行政内部からも改革を進めて

下さい。官僚の中にも問題意識を共有している方は多数おられます。権力に擦り寄って利権を求める一部企業や政治家に対して、公務員の誇りをかけて正しい行政を貫いて下さい。関西では民主的な行政で一部のムダなダムは止まりました。まだ間に合います。

以上

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 栃木県	(市区町村名) 栃木市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	60歳以上	⑤性別	女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
5	52	八ツ場ダム建設予定地は地質が脆弱で、ダムを造り水位を上下させれば、地滑りを誘発する危険性が高い。さらに、最近多発している地震でのダム崩壊の危険性と、周辺住民への甚大な被害が予想される。このような危険性の高い八ツ場ダムを、利根川水系河川整備計画からの削除することを求めます。	
5	58	渡良瀬遊水地がラムサール条約湿地に登録され、「渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画」による湿地保全・再生に努めるとあるので、そのためには関係機関と地域住民が一体となって協議し協働作業をすすめる「協議会を設立し、河川環境の整備を推進する」と踏み込んだ計画にすよう求めます(77頁と関連)。	
5	74	自然環境の保全について 環境省の平成22年度第3回「ラムサール条約湿地候補地検討会」で示された「候補地リスト」には、霞ヶ浦・北浦と利根川下流域(神橋市高浜、周辺水田)がはいっている。今後、この二地域を中心として、ラムサール条約湿地登録へ向けてもふさわしい自然環境が保全されるよう河川整備計画の策定を求めます。	

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[Redacted]	
②住所		(都道府県名) 群馬県	(市区町村名) 前橋市
③電話番号又はメールアドレス		[Redacted]	
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	<input checked="" type="radio"/> 男性・女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>ダム工事(大型公共事業)にズブ素人です。</p> <p>生れは中之条町。八ッ場ダム予定地は、利根川支流の吾妻川の中程です。このダムは過大評価されていないですか？</p> <p>ダムを造れば「地滑りを誘発する恐れがある」と言う字も居ます。原案の活断層向斜の様は、地質専門委員会の様なものも建ち上げ、予断なく研究すべきだと思います。それは、地元住民、そして子孫の迄及ぶとだからです。(生命)</p> <p>福島を除染の様は、大企業の為の事業なら言詰道断。(地元住民の心とを奪うならヒンハネ、ゴマカシ横行)</p> <p>何れにしても「建設ありき」ではなく、科学的・客観的に本当に安全且必要なのか、片寄りない専門家による検証を強く求めます。(開かれた)</p> <p>対象地域に従兄弟が居ます。今は、建設賛成で非か、沖縄の人達の様にアメとムチで騙し、威すことは、良心が怒のませんか？ 良心が呆然か！</p> <p>にしている (無意識のうちに培われた)</p> <p>になりました</p> <p>呉々も血税であることを お忘れなく！ 善政をお願いします。</p>	

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[Redacted]		
②住所	(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) 鳩山町	
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	

〔意見該当箇所：2.2 (25～27頁)、5.1.1 (52頁)、5.1.2 (57頁)〕

第一に、首都圏の「水資源開発」を目的とした八ッ場ダムは、すでに水余りの時代を迎えており、ダム建設は税金の無駄となるので、河川整備計画から除外してほしい。首都圏の人口も近いうちに漸減傾向にあるうえに、水洗トイレや洗濯機など節水型機器が普及しており、また、漏水防止対策で漏水も減少しているため、八ッ場ダム建設の必要性はなくなっています。

〔4.1 (41頁)、5.1.1 (52頁)、5.1.2 (57頁)〕

第二に、「治水対策」を目的とした八ッ場ダムは、終戦直後のカスリーン台風の再来を想定して計画されたものだが、60年経った現在、八ッ場ダム建設の意味は失われており、税金の無駄使いになるので河川整備計画から除外してほしい。戦後、群馬県の山林には植林がなされており、森林の雨水吸収力による貯水量は、八ッ場ダムの十数倍以上になっています。利根川の河道は、堤防の整備、河床の掘削など河川改修が続けられてきた結果、大きな洪水が来ても十分な余裕をもって流下するようになっています。今や、カスリーン台風の再来を想定したとしても、国交省の計算によれば、八ッ場ダムの治水対策の効果はないことが明らかになっています。

〔(同上箇所)〕

第三に、八ッ場ダム予定地は、地質が脆弱であり、ダム建設をすれば、深刻な地滑りが発生するので、八ッ場ダム建設を河川整備計画から除外してほしい。予定地は、地滑りの危険度が高い斜面がほかのダムと比べとびぬけて多くあるので、地滑り対策費も多くなります。

〔4.1 (41頁)〕

第四に、治水目標量を正確に計算してほしい。計画原案は、治水目標流量を八斗島地点で1,7000 m³/秒としているが、この数値は実態とはかけ離れており、正しくは15,000 m³/秒程度とされています。誤った流量を使うことは許されません。

〔全体〕

第五に、水系全体としての河川整備計画が必要です。利根川水系には、渡良瀬川、鬼怒川、霞ヶ浦など大きな支川がいくつもあります。生物多様性回復の視点に基づき、支川も含めた水系全体の河川整備計画策定する必要があります。

〔全体：計画内容の考え方〕

最後に、発想を転換し、生物多様性の保全と復元を重視し、自然の動きに順応した対策を考え、河川整備計画を作り直してほしい。明治以来の日本の河川整備は、洪水を河川敷に閉じ込め、すばやく海に放流するための工法を利用してきた。コンクリートの堤防とダム建設は、住民に移住を強制し、生物の生息地を奪い、生物多様性を減少させてきた。昔の治水と利水は、洪水を受け入れ、水を大地に返し、水が一度に川に押し寄せないようにすることを考えた。

武田信玄は、川の上流に「霞堤」を造り、大雨の時、上流であふれさせることにより、その地域で水を遊ばせ、土にしみ込ませ、一度に水が下流に流れないようにした。大雨の時、水が堤の外に流れるようになっていた。堤の外に氾濫原が広がり、しばらく留まり、やがて川の水が引くと、徐々に川に戻っていく。このようにして、下流地域住民の生活を守った。加藤清正の「越流堤」も同じ発想であった。上流域に複数の大氾濫原や遊水池をつくれば、治水と利水の目的達成だけでなく、失われた生物多様性の保全と回復に役立つ。このようにしてこそ、やがて、コウノトリやトキは、再び関東にも戻ってくる。八ッ場ダム建設は、中止し、自然の動きに順応した対策を考え、多様な住民の意見を聞き、計画を練り直してほしい。

(2013年2月27日、)

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[Redacted]		
②住所	(都道府県名) 東京都	(市区町村名) 北区	[Redacted]
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)		
頁	はじめに、		
<p>1945年生まれ67歳の私にとって、戦後の日本社会のあり方は、国民の暮らしを本当に豊かにしてきたのかと疑問を抱かざるを得ません。生産者は60代が担っています。消費者の方から人口が多い、山や森が荒れている。自然の豊富な資源が使われようとしている。40代の若者たちが失業している。スキルのでき子人がけが仕事を得ず。山や森を農業者の仕事を増やして、公共事業という名の破壊者仕事。官僚のみならずのたて割り(自然を)と利権中心のコンクリート事業は私たちが国民を幸せにしてくれません。過去に目を閉じた者は未来を語りません。多くの公害を経験している日本。今こそ自然の豊かさを活かして、人の暮らしを安心できる国づくりを目指していきましょ。――</p> <p>戦後、内閣なく大蔵省の当時の財務課長が財政法4条で赤字国債は発行しないことを定めています。高度経済成長、全国総合計画など日本列島はとて均一化してしまいました。自然の風土に合った日本家屋、街づくりを農村の風景をぜひ取り戻すために、入場料は無料開放国を求め</p>			

私個人も同趣旨の考之に賛同し、
フビ一を添えおたす。

利根川流域市民委員会が考える

「利根川・江戸川河川整備計画（原案）」の問題点

あしたの会も参加している利根川流域市民委員会では、国交省関東地方整備局による原案の問題点を公表していますので、お伝えします。パブリックコメントは皆さんが日頃感じていることを行政に届ける仕組みですが、情報として参考になればと思います。

○ 首都圏の水需要は減少の一途。都市用水の開発が主目的の八ッ場ダムはいらない。

首都圏の水需要は減少の一途を辿っている。東京都の水道は、1992年度から2012年度までの20年間で一日最大給水量が約150万 m^3 も減っている。節水型機器の普及などにより一人当たりの給水量が減ってきたからである。今後は人口が首都圏でも漸減傾向に変わるので、水需要の減少傾向は続き、八ッ場ダムの必要性はますます失われる。

○ 八ッ場ダムは治水効果が希薄。八ッ場ダムを含まない河川整備計画を求める。

利根川流域に甚大な被害をもたらしたカスリーン台風（1947年）の時、仮に八ッ場ダムがあったとしても、効果がゼロであったことが国交省の資料で明らかになっている。また、最近60年間で最大の洪水であった1998年9月洪水において、その水位低減効果を計算すると、群馬県伊勢崎市の八斗島（やったじま）地点（利根川の治水基準点）でわずか13cmしかなく、利根川の治水対策上、八ッ場ダムは殆ど意味がないことは明らかである。

○ 八ッ場ダム予定地は地質が脆弱。ダムを造れば地すべりを誘発する危険性が高い。

八ッ場ダム予定地は地質が脆弱で、これまでも地すべりや崩落事故が起きている。ダムを造り、水位を上下させれば、深刻な地すべりが発生する危険性が高い。八ッ場ダムを原案から削除することを求める。

○ 巨額の費用を要するスーパー堤防はいらない。

スーパー堤防は1kmの整備に数百億円規模の事業費を要するため、実際には「点」の整備しかできず、治水対策として有効ではない。スーパー堤防を含まない整備計画を求める。

○ 首都圏氾濫区域堤防強化対策事業は高額すぎる。もっと安上りな堤防強化対策を。

進行中の首都圏氾濫区域堤防強化対策事業は、利根川・江戸川の右岸側の堤防（約70km）を拡幅する事業である。堤防の裾野を大きく広げるため、1,200戸以上の家屋の移転が必要で、完成まで長い年月を要する。また、現計画の事業費でも約2,700億円にもなる（堤防1メートル当たり約400万円）が、事業費は今後さらに膨れ上がると予想される。治水対策は最小の費用で最大の効果があり、長い年月を要しないものを選択すべき。

○ **原案の実施に必要な事業費を示し、実現性の見通しを明らかにしてほしい。**

今回の原案はダム事業だけでなく、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業やスーパー堤防など、巨額の費用が必要な事業が数多く含まれており、実現性が危ぶまれる。

○ **新たな社会資本への投資が厳しくなりつつ現実を踏まえることを求める。**

国土交通白書（平成 21 年度）には、過去につくった社会資本の維持管理・更新費が今後は次第に増加し、2037 年度には投資可能額に達してしまうことが記されている。つまり、このままでは新規事業はおろか、維持管理・更新費用さえ不足してしまうのである。この現実を踏まえれば、原案のように毎年、巨額の予算をダム建設や河川改修等のために利根川に注ぎ込み続けることは不可能である。流域住民の安全を早急に確保できる治水対策を厳選し、河川予算を集中しなければ、住民は氾濫の危険性がある状態に放置されてしまう。

○ **水系全体としての河川整備計画の策定が必要。**

原案は利根川・江戸川の本川のみを対象としている。しかし利根川水系には渡良瀬川、鬼怒川、霞ヶ浦など大きな支川がいくつもある。支川も含めて水系全体の河川整備計画を策定する必要がある。支川と本川は相互に関係し、特に支川の状況が本川に影響するので、本川だけの整備計画を先に策定するのは科学的見地からみておかしい。

全国の一級河川の直轄区間では 72 水系で河川整備計画が策定されているが、今回の原案のように、本川の河川整備計画を先に策定した水系はない。

○ **堤防強化に重点を置いた河川整備計画を。**

利根川及び江戸川の本川・支川では洪水の水位上昇時に破堤する危険性がある脆弱な堤防が各所にある。浸透防止対策が必要な区間は利根川 62%、江戸川 60%に及び、破堤すれば甚大な被害をもたらす。喫緊の治水対策である脆弱な堤防強化工事を急ぐ必要がある。

○ **想定を超える洪水が襲っても壊滅的な被害を受けない対策を。**

東日本大震災を踏まえ、利根川でも想定を超える洪水が襲った場合に壊滅的な被害を受けない治水対策が必要である。ダムなどの大きな河川構造施設を整備することは、巨額の予算ときわめて長い年数を要するため、治水対策として実効性に乏しい。想定を超える洪水が来ても、壊滅的な被害を防止できる現実に実施可能な対策、すなわち、越流してもすぐに決壊しない堤防（耐越水堤防）に変えていくことが必要である。

○ **安価なハイブリッド堤防技術を導入した河川整備計画を求める。**

耐越水堤防は巨額の費用をかけずに堤防を強化できる技術が選択されなければならない。鋼矢板やソイルセメント連続地中壁を堤防中心部に設置するハイブリッド堤防が安価な技術であり、このような新しい技術による堤防強化工事を早急に推進することが必要である。

○ **ゲリラ豪雨による内水氾濫への対策に重点を置いた整備計画を求める。**

利根川流域における最近の氾濫は、ゲリラ豪雨が引き起こす内水氾濫（小河川の氾濫を含む）ばかりである。2011年9月初めにも群馬県南部で記録的な大雨があり、浸水被害があったが、これも内水氾濫であった。雨水貯留・浸透施設の設置、排水機場の強化など、内水氾濫対策に重点を置いた河川整備計画が求められている。

○ **原案の前提となっている過大な治水目標流量の引き下げを求める。**

原案が前提としている治水目標流量 17,000 m³/秒は、1947年カスリーン台風洪水の再来計算 21,100 m³/秒を算出した洪水流出モデルを使って、治水安全度 1/70～1/80 に相当する流量を求めた値である。しかし、カスリーン台風洪水の実績流量は 15,000 m³/秒程度であったことが当時の建設省の資料によって明らかになっている（東京新聞特報部 2013年1月10日）。治水目標流量を科学的に計算し直して引き下げを求める。

○ **治水目標流量の議論を一方的に打ち切って原案を示すことは許されない。**

昨年9月から10月に開かれた利根川・江戸川有識者会議では、原案の前提となっている治水目標流量 17,000 m³/秒（伊勢崎市八斗島）について、有識者委員より根本的な疑問が提起され、治水安全度 1/70～1/80 で対応する流量は実際には 17,000 m³/秒よりかなり小さいことが明らかになった。議論を一方的に打ち切って、科学的根拠がない治水目標流量を前提とした原案を示すことは許されない。議論の続行を求める。

○ **1997年河川法改正の本旨を踏まえ、整備計画の策定作業の民主化を求める。**

河川管理者（利根川・江戸川の場合は国交省関東地方整備局）は、河川整備計画に関係住民の意見を反映させる責務がある。

河川法改正に当たり、当時の尾田栄章河川局長は国会質疑で「（関係住民の意見を）言いっ放し、聞きっ放しというのでは全く意味がない」、「河川整備計画に関係住民の皆さん方の意向が反映をしていくというふうに考えております。」と答弁している。また第2回利根川・江戸川有識者会議（2006年12月18日）では、事務局の高橋河川計画課長が「整備計画原案を示し、有識者会議、関係住民等の意見をきいて整備計画修正案をつくり、それを何回か実施して計画をつくる」と言明した。

○ **流域住民の安全を確保し、環境に配慮した整備計画を策定するため、十分な議論を。**

利根川水系河川整備計画は、利根川において今後30年間に実施する河川整備の内容を定めるものであるから、流域住民の生命と財産を洪水の氾濫から守ることができ、環境にも十分に配慮したものでなければならない。流域全域について必要な調査を行った上で、それぞれの状況について知見を有する住民及び専門家の意見が反映されるよう、流域住民及び専門家を交えた議論を積み重ねていくことが必要である。

○ 生物多様性を重視した河川整備計画の策定を求める。

2010年10月に開催された第10回生物多様性条約締約国会議（名古屋）では、「2020年までに生物多様性の損失を食い止めるための行動をとることを私たちの使命（ミッション）」と位置づけて愛知ターゲットが採択され、「遅くとも2020年までに、生物多様性の価値が、国と地方の開発（略）の戦略及び計画プロセスに統合」されることなど、20項目の目標が設けられた。

○ ラムサール条約湿地候補地リストに入っている利根川下流域（神栖市高浜および周辺水田など）と霞ヶ浦・北浦を中心として、登録地に相応しい、自然に優しい河川整備計画を策定することを求める。

2011年8月24日開催の環境省の平成22年度第3回ラムサール条約湿地候補地検討会で示された候補地リストには利根川下流域（神栖市高浜および周辺水田など）と霞ヶ浦・北浦が入っており、次回以降のラムサール条約締約国会議に向けて、この二地域を登録地にする動きが出てくることが予想される。

○ 利根川がラムサール条約登録地になることを目指して、登録地に相応しい、自然に優しい河川整備計画を策定することを求める。

昨年7月のラムサール条約第11回締約国会議では、渡良瀬遊水地と円山川下流域（兵庫県）がラムサール条約の登録地になった。この二つの地域は河川法による河川区域で、ラムサール条約登録地としての国内の法的担保（開発行爲の抑制）が可能であるとして登録地になった。同様な考え方を当てはめれば、利根川をラムサール条約登録地にすることは可能である。

○ 過去の開発で失われた自然を取り戻し、自然に新たな負荷をかけない整備計画を。

利根川水系では過去のダム建設、河口堰建設、霞ヶ浦開発といった開発事業によって、自然が大きなダメージを受けてきた。

兵庫県の円山川では、今年2月5日まで河川整備計画原案のパブコメが行われた。円山川の下流域は昨年7月のラムサール条約第11回締約国会議で登録地になり、これを踏まえて自然の回復を目指した原案が提示された。原案には「川の営力による自然の復元力を活かしつつ、河川環境の整備を行い、過去に損なわれた湿地や環境遷移帯等の良好な河川環境の保全・再生を図る」、「水域から山裾までの河床形状をなだらかにして、山から河川の連続性を保全する」、「本川と支川・水路との間の落差を解消し、生物の移動可能範囲の拡大を図る」ことなどが記されている。

http://www.maruyama-iinkai.com/pdf/17_Kol8siryo2-2_genan.pdf

利根川水系においても自然の回復を目指した河川整備計画の策定が求められている。

回答者 国土交通国土整備局河川部河川計画課様 (意見提出様式)
 「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画(原案)」に対する意見

①氏名	[Redacted]		
②住所	(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) 秩父市	
③電話番号又はメールアドレス	TEL [Redacted]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	<input checked="" type="radio"/> 男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
率	頁		
	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)		
全体について	<ul style="list-style-type: none"> 先ず第一に首都圏の水需要は減少の一途を辿り、これからの増力は認められない、従ってダムが必要では無い。 治水面では、回答者の資料でもカスリーン台風から最近60年間のデータでも、全くのハツ場ダムの効果は無いとありました。 私も、何度もハツ場ダムの現地を見に行ってきたが、地質が脆弱で、こんな所にダムをつくることは安全面から、財政面からも景観を無視して(2)のことも及ばず。 最近になって遺跡が出てきているのは確かだが、過去の文化を示す、極めて貴重な遺跡であることがわかってきた。これを見るには(2)のことは我々祖世代の「ホウトク」です。この川の社会的価値は南谷にはありません。 		

差出人: [REDACTED]
送信日時: 2013年2月28日木曜日 11:53
宛先: tone-plan3@ktr.mlit.go.jp
件名: 「利根川・江戸川河川整備計画（原案）」意見募集 事務局宛

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

- (1) 氏名: [REDACTED]
(2) 住所: 岡山県岡山市中区 [REDACTED]
(3) E-mail: [REDACTED]
(4) 年代: 50代
(5) 性別: 男
(6) 意見

5章, P. 52

洪水調整として、遊水池整備と並んでハッ場ダムが書かれているが、ダムの規模だけ書かれていて、その対策効果が科学的なものか検証が説明されておらず、国費で行う事業で最も問題になる費用対効果についても科学的な視点からの説明が無い。新聞などでの報道では巨額の費用が必要としているのに、整備計画には費用のことを記述しないのはパブリックコメントとして市民の声を聴くという姿勢が欠けているのではないかと。

また、同額の費用を堤防改修、河川掘削につぎ込んだら、ある程度の洪水対策にはなるのではないかとという疑問があります。

5章, P. 68

ダムの維持管理が必要なことは理解するが、ダムの計画性能を維持するために何をしなければいけないのか明確ではない。流木等の処理は目に見えるので当然としても、堆砂により基本性能が発揮できなければ洪水対策や渇水対策は計画通りには実行できない。流木処理や堆砂の処理も含め年間どの程度の維持管理費用が必要かも示す必要があると思います。ハッ場を作るなら作った後に必要な維持管理費も入れて。

5章, P. 74

『なお、品木ダムについては、今後も中和対策を継続し、効率的な中和生成物の処理の検討・対策を行う。』との記述がありますが、これはどんな目的でなぜ行うのか、費用は年間いくらかかるかなど、疑問があります。このダムはハッ場ダム上流に位置しているので、ハッ場ダムを作るためには、上記の対策を継続して行う必要があるということでしょうか？

6章, P. 77

「ダムを活かした水源地域の活性化」とありますが、品木ダムもそこに名前が出ています。中和を続けなければ水質が保てない貯水を活かした活性化策があるならば明記してください。「危険な水質なので中和しています」という対岸の火事的な興味本位で人を呼ぶならば別ですが。

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[REDACTED]	
②住所		(都道府県名) 群馬県	(市区町村名) 高崎市 [REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別 男性・女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
全体		<p>川は、自然環境のなかで人間の身体に例えると、血液の役を担っていると考えられています。ですから、その扱いについては、機械的であってはならないし、数値合わせで企画されてはならないと思います。</p> <p>新しい河川法は、どちらかという従来法律が、ハードの面に中心を置いていたために、そうした視点からつくられていたものを、少しでも血の通った計画を立てられるようにというねらいでつくられたと感じとれます。しかし、今回の利根川水系利根川・江戸川整備計画（原案）を見る限り、機械的な従来の整備計画そのもので、それぞれの地域の川の実態が見えず、やたらに築堤だの水量調節をする施策が示されているとしか思えないのです。地域の人との話し合いの場をつくりながら、血の通った計画を立て直してほしいです。</p>	
4.3	8	<p>吾妻川上流における流入支川が強い酸性であるという捉え方は、間違っています。全支川が酸性であったら、古代から人は住まわなかった筈です。しかし、周辺は古代遺跡の宝庫であることが発見されています。吾妻川は酸性でも、支川はいろいろの水質であるのです。全支川が酸性であるかのような捉え方で施策を立ててほしくないものです。</p>	
	14	<p>新たな中和施策など、絶対企画しないでください。なぜなら、現在品木ダムから浚渫した中和生成物の処分場さえままならない状態のようです。問題は、セメント固化することにより中に含まれているヒ素が、危険な水溶性ヒ素塩となって溶出し、環境を汚染することです。さらに、この処分場が、ただの穴を掘っただけのもので、多くの微生物と反応して危険な有機ヒ素化合物にヒ素が変化してしまう危険もある設備なのです。</p> <p>このヒ素を安全な形にする作業こそが、流域住民にとっては水害被害対策より大きな問題なのです。しかし、今回の計画のなかに入れず、更にこの危険な中和事業を拡大実施使用としていることを見通すわけにはゆきません。中和施設がまさにトイレなきマンションであるという原発と同じぐらいの危険な施設であることを一刻も早く気づいてほしいです。</p>	

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]				
②住所	(都道府県名) 千葉県	(市区町村名) 佐倉市			
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]				
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性		
意見該当箇所	⑥ご意見				
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)			
		<p><u>全体について</u></p> <p>日本の赤字国債が900兆円を超したともいわれているのに、巨額の費用を要する本整備計画は、再考すべきである。</p> <p>何よりもハツ場ダム計画は、首着圏の水需要が減少の一途を辿っている現在、ハツ場ダムの開発は不要である。治水対策のためにダムを計画するならば流域住民の安全を早急に確保できるような提防強化に技術と予算を推進すべきである。</p> <p>また、「みどりのダム構想」のような、利根川水系においても自然の回復を目指した河川整備計画の策定が求められている。</p>			

[/]

川は、単なるものなのか。河川官僚の皆さん、あなたがお生まれの時の、産湯のことを思い出してください。この命の水は、あの生きた河川、生命のあふれた生態系なしに存在しません。そして、言うまでもなく、山の森林なしにわたたちの生命活動は存在しません。川は、人間だけのものではなく、昔の利根川は、はるかに豊饒な生き物たちがいた。信濃川はそのむかし、サケの川でした。5万尾のサケが松本でとれた記録がある。

特に、巨大都市中心の、近代化と開発の影には、技術という名の、経済優先主義、自然破壊がまかり通ってきたのではないのでしょうか。この構図は、基本的に、福島原発と東京の関係、都市と農村の関係として、信濃川の宮中ダムと東京の山手線の電力の関係と同様です。この点私たちの暮らしや生産のありようを反省しなければならないでしょう。

しかし、エネルギーや河川は、国のありよう、基本構造に深くかかわります。国の公共政策として展開されるからです。

利根川・江戸川河川整備計画の検討に当たり、いくつかの要望をしたい。争点や論点は多々あるが、基本は、97年河川法の改正の理念・精神をより前向きに、豊かにお考えいただきたい。

- 1 利根川流域全体の河川整備計画にしてください。
- 2 論点や争点のあるものに関しては、より十分の時間をかけて検討すること。
- 3 科学的合理性、社会的合理性を大事にしつつ、地球時間で考察されたい。
- 4 流域住民の意見を尊重されたい。聞き置くだけでなしに、対話と反映を。
- 5 治水、利水ともに再検討されたい。
- 6 リスク論について、専門家の検討会議を新たに設けられたい。特に、地層、地崩れ地震などの評価がある。環境リスクの課題や情報は、流域住民に告知され、地域住民の意見が、適切に当該開発に反映されなければならない。この点で、リスク・コミュニケーションは重要である。
- 7 生物多様性の戦略の尊重は時代の常識、アユやウナギ、植生などの生態系との平和的共存を進めてください。
- 8 特に、「有識者会議の9回の中断」と素案の公表は、歴史に残る不明瞭な措置になりかねない。反省されて、善処されたい。対話の中止と科学論の放棄は歴史にのこる「事件、無責任」のそしりを逃れまい。だれも責任を取らないシステムなのか。会議のありようについても再検討されたい。
- 9 川は、公共のもの。地域の人々と民意と相談しながら、よりいいものにしませんか。たとえば、浸水や水害は地元でないとわからない。歴史と科学と事実を大事にしながら、流域住民と胸襟を開いて川づくりをしてください。科学者やあなたがたの専門性が光りますよ。例えば多摩川の官・民共同の成功事例を思い出してください。
- 10 TVA法は、偶然にできたものではない。むしろ、新たな国家政策により慎重につくり出されたものであつた。史上初めて、河川の資源が「その全体を顧慮される」

ようになったばかりか、自然の資源の統一性にもとづいて開発されるようになったことである。この統一性とは、水・土地・森林をいつしよにしたものである。(リリエンソール)

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

① 氏名		[REDACTED]			
② 住所		(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) 三郷市		
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]			
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性	
意見該当箇所		⑥ご意見			
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)			
5	52	○ハッ場ダムの建設は、河川整備計画から削除すべきです。建設の根拠が極めて希薄だからです。治水上の必要根拠となる想定洪水水量は、過大で信用できるものではありません。利水上も需要水量の設定が、現実とは遊離しています。国家の財政が破綻状態にあるのに、不要と思える支出は止めるべきです。河川整備に限っても、他にやることはたくさんあります。			
5	52	○堤防強化に対する研究開発が不十分です。堤防断面積を拡大する工法が殆どですが、他の工法も研究すべきです。土木技術も向上しているし、大型重機も利用できる状況にある今日、土盛り以外の工法は沢山考えられます。今は知恵がなさ過ぎます。費用対効果の高い工法を追求すべきです。			
5	52	○堤防の侵食事例として、平成13年9月の台風15号による、利根川右岸139km付近の浸水事故が引き合いに出ます。事故を受けて、既に調査及び復旧処理が行われています。その経過を十分には知り得ていませんが、この事故現場は堤防工法の格好の研究材料になると思います。改めて再調査することを提案します。川表に仮設止水壁を設けて、事故現場の堤防断面を完全に露出させて、浸水漏水の原因を探るべきです。やるだけの価値はあると考えます。			

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	埼玉県朝霞市 [REDACTED]		
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	60歳以上	⑤性別	男性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)			
<p>全体的な意見として下記の8点について意見を提出します。</p> <p>1. 都市用水の開発が主目的の八ッ場ダムは不要である 首都圏の水需要は減少の一途である。節水型危機の普及により各家庭の吸水量が減ってきたからである。今後は首都圏の人口は減る傾向にあり、水需要の減少傾向は続き、八ッ場ダムの建設の必要はますます失われる。</p> <p>2. 八ッ場ダムの治水効果は疑問である 1947年のカスリーン台風時、仮に八ッ場ダムがあったとしても、効果がゼロであった（国交省資料）。最近60年間で最大の洪水時（1998年）においても八ッ場ダムはほとんど役立たないことが明らかになっている。</p> <p>3. 八ッ場ダムを造れば地滑りを起こす危険性が高い 八ッ場ダム建設予定地の地盤に問題が多い。これまでも地すべりや崩落事故が起きている。ダムを造ってはいけない地盤であり、八ッ場ダム建設の削除を求める。</p> <p>4. 費用対効果からもスーパー堤防は不要である スーパー堤防は数百億円/kmの巨額な建設費がかかる。整備が完了するまで100年以上かかるとされる。費用対効果の面からもスーパー堤防は造るべきではなく、直ちに中止を求める。</p> <p>5. 堤防強化に重点を置いた河川整備に変更を求める 洪水による水位上昇により、破堤する恐れがある脆弱な堤防が各所に存在する。浸透防止対策が必要な区間は利根川62%、江戸川60%に及ぶ。喫緊の治水対策は堤防強化である。</p> <p>6. 想定を超える洪水でも壊滅的被害を防ぐ対策を求める 自然災害は時に想定を超える洪水を引き起こす。この場合でも壊滅的被害を防ぐ、現実的な対策、越流してもすぐに決壊しない堤防（耐越水堤防）に変えていくことが</p>			

必要である。

7. 流域住民及び専門家の意見が反映できる計画づくりを

流域住民の生命と財産を洪水の氾濫から守り、環境に十分配慮したものでなければならぬ。流域全域の調査を行い、それぞれの知見を有する流域住民及び専門家の意見が計画に反映されるよう

丁寧な議論を積み上げていくことが必要である。

8. 自然を破壊せず、自然と協調した整備計画づくりを望む

利根川水系では過去のダム建設、河口堰建設、霞ヶ浦開発といった開発事業によって自然が破壊されてきた。各地で自然を復元する市民運動などが起こり、良好な河川環境の保全・再生活動が行われている。利根川水系に置いても自然の回復をめざした河川整備計画の策定が今求められている。

以上

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[REDACTED]
②住所		(都道府県名) 東京都 (市区町村名) 北区
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]
④年代		20歳未満・20代・30代・ 40代 ・50代・60歳以上
⑤性別		男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input checked="" type="checkbox"/>
⑥ご意見		
意見該当箇所	(意見ごとによできるだけ200字以内で記載してください)	
章		
頁		
全体	<p>○原案の前提となっている過大な治水目標流量の引き下げを求める。</p> <p>カリン台風時(1947)の再来計算21,100 m³/秒は、過大で、実績流量は15,000 m³/s程度であったことが当時の建設省資料で明らかになっている。</p> <p>○ハツ場ダムを含まない計画を求む。また議論の一方的な有識者会議での打切は、意図的で許さず。</p> <p>○ハツ場ダムは治水効果に乏しい。中止してほしい。の壊滅的な被害を防止するため越流にもすぐに決壊しない堤防(耐越水堤防)を治水対策とすべきである。</p> <p>○又、安価な堤防強化工事を推進することが必要である(例えばハイリット堤防)</p> <p>○首都圏の水需要は減りの一途であり、都市用水の開発が主目的にハツ場ダムはいらない。</p> <p>○ハツ場ダム予定地は地質が脆弱であり、地すべり、崩落の危険がある。また地震を誘発する恐れもある。中止すべきである。</p>	

(/)

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[REDACTED]
②住所		(都道府県名) 東京都 (市区町村名) 北区
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]
④年代	20歳未満・20代・30代・ 40代 ・50代・60歳以上	⑤性別 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input checked="" type="checkbox"/>
意見該当箇所		⑥ご意見
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)
全体		<p>○ハツ場ダム 工事は、現存の樹木の伐採、地形の改変が大きすぎる。^{二つ以上の}代替のまかない量である。現状の美しい自然環境が失われることは、未来永劫に渡る国家的損失である。その経済的価値は、^{代替のま}利水、治水効果よりも大きい。よってハツ場ダム 工事は中止すべきである。</p> <p>○自然の樹林は、幹、葉に保水する^{より}自然のダム^{である}。今後は支川や霞ヶ浦、比浦までを含んだ、自然をの復元、保全を中心とする河川整備計画へと変更すべきである。</p> <p>・湿地、環境遷移帯、干潟、溪谷、水源林などの多様な生物を保全する計画とすべきである。</p> <p>○利根川ラムサール条約登録地になることを目指す。</p> <p>○その自然の価値を算出^しすべきである。水源と^{この価値}も^{ある}。今後500年^{以上}について算出^しすべきである。</p>

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①	氏名	[REDACTED]		
②	住所	(都道府県名) 千葉県	(市区町村名) 佐倉市	
③	電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④	年代	60歳以上	⑤性別	女性
意見該当箇所		⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)		
2.3	27	<p>まず、河川整備計画策定のための「利根川・江戸川有識者会議」のあり方、進め方に問題があり、「河川整備計画」を策定する段階にないと考えます。委員からは会議の進め方について、また内容について様々は疑問や提案が出されていましたがそれをきちんと取り上げ、議論をするという当たり前のことが、今だになされていません。</p> <p>特に、目標流量を決めてから計画を立てることに対する疑問がたくさん出されてきました。八ッ場ダムは、治水、利水、安全性、財政面等様々な観点から考えて、無駄なダムであり、次世代に大きな負担を負わせるダムであることは、すでに多くの国民が知るところとなっています。災害対策はどうあるべきかといった基本的問題に立ち返り、「有識者会議」を仕切り直し、議論を重ねたうえで「河川整備計画」を策定すべきです。</p> <p>本当に住民の安全を守るためには、環境や社会的要因など様々な観点から検討する必要があります。国交省だけでなく、環境省、農水省、林野庁、財務省などと協力して、後世に悔いを残すことのないよう公正に「河川整備計画」を策定してください。</p>		
4.3	44			
5.1.3	57			

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[Redacted]		
②住所	(都道府県名) 群馬県	(市区町村名) 玉村町	
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)		
章	頁		
		<p>利根川治水の契機課題となる堤防の強化に重点を置いて河川整備を求めます。</p> <p>私は群馬県佐波郡玉村町に住んでいます。</p> <p>[Redacted] をしています。30年前の工場排水の汚水を貯水することを目的に結成された。活動内容は土手(2km)を年間20回除草刈り、魚の全魚調査、工場排水の調査(5月5日こどもの日、魚のつかみどり)、上陽小学校で全徒へ授業、昔のおもちゃ遊び(こども300名参加)8月15日日曜、日露戦争からの戦死者へ灯籠流しをしています。また、2014年9月の大雨では藤川下も田へ水が入り、田畑は床下まで水がきました。利根川は前橋のりま村で大きく曲ります。板井田地から下之宮までの堤防は以前の玉王で竹や木が立っています。手入れをしておくと見えます。大雨の場合は中学校は休校が観望します。堤防のそばは昔は桑畑でした。現在は屋敷が繞っています。現場を見て下さい。早く直した方が良く思います。ご検討下さるよう要望いたします。</p>	

[/]

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[Redacted]	
②住所		(都道府県名) 千葉	(市区町村名) 千葉市緑区
③電話番号又はメールアドレス		[Redacted]	
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別 <input checked="" type="radio"/> 男性 <input type="radio"/> 女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p> ぼくたちの世代は、高度経済成長を担ってきました。その反面、大きな負の遺産も生み出しました。 その一つが巨額の財政赤字です。 ハツ場ダムは、治水効果や安全性に問題が ありにもかかわらず、建設が進められています。 これ以上、子孫にツケをまわさないためにも、計 画を中止されるよう、求めます。 </p>	

[/]

(別添：意見提出様式)

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名	[Redacted]		
②住所	(都県名) 群馬県	(市区町村名) 高崎市	[Redacted]
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
<p>○首都圏の水需要は減少しており、都市用水のためのハツ場ダムはいらない。</p> <p>○ハツ場ダム予定地は地質が弱く、ダムを造れば地すべりを伴うため危険が非常に高い。すでに工事中に鳥沢地区で土砂が流出している。ハツ場ダムを原案からなく。</p> <p>○原案の前堤となつている過大な治水目標量を引き下げ、さらに台風洪水再来で計算した数値を過大にしてつくるとしているのはおかしい。</p> <p>○生物多様性を重視した三河川整備計画の策定を求めます。自然の破壊は生物多様性を失い、地盤を傷ける恐れがあります。</p> <p>○過去の開発で失われた自然を取り戻し、自然に負荷をかけない整備計画を。何十年もかけ、その人々が生活してきた場所を不金で反対運動を分断して新世界、新緑もバラバラにしてやる。これは人道的なものではないと考へます。</p>			

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) さいたま市中央区	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p><烏川の調節池は洪水を起こす></p> <p>烏川の調節池は広大な河川敷を占拠して、流路部分を狭窄し流れを阻害する。洪水の初期から水を溜め込み水位を上昇させ、巨大洪水のピーク時は、池と川の水位が同じになり、越流がなくなるので、洪水流のピークカットは出来ない。また、狭窄した河道に洪水流の全量が存在し、上流下流とも最も危険な状況となる。</p> <p>全国の河川で調節池の見直しの機運があるとき、利根川で調節池を作る理由は全くない。</p>	

差出人: [REDACTED]
送信日時: 2013年3月1日金曜日 11:33
宛先: tone-plan3@ktr.mlit.go.jp
件名: 利根川・江戸川整備計画に関するパブリックコメント

全体に関する意見を述べます。

[REDACTED] 武蔵野市 [REDACTED]

TEL [REDACTED] FAX [REDACTED]

○ 首都圏の水需要は減少の一途。都市用水の開発が主目的のハッ場ダムはいらない。

首都圏の水需要は減少の一途を辿っている。東京都の水道は、1992年度から2012年度までの20年間で一日最大給水量が約150万m³も減っている。節水型機器の普及などにより一人当たりの給水量が減ってきたからである。今後は人口が首都圏でも漸減傾向に変わるので、水需要の減少傾向は続き、ハッ場ダムの必要性はますます失われる。

○ ハッ場ダムは治水効果が希薄。ハッ場ダムを含まない河川整備計画を求める。

利根川流域に甚大な被害をもたらしたカスリーン台風(1947年)の時、仮にハッ場ダムがあったとしても効果がゼロであったことが国交省の資料で明らかになっている。また、最近60年間で最大の洪水であった1998年9月洪水において、その水位低減効果を計算すると、群馬県伊勢崎市の八斗島(やったじま)地点(利根川の治水基準点)でわずか13cmしかなく、利根川の治水対策上、ハッ場ダムは殆ど意味がないことは明らかである。

○ ハッ場ダム予定地は地質が脆弱。ダムを造れば地すべりを誘発する危険性が高い。

ハッ場ダム予定地は地質が脆弱で、これまでも地すべりや崩落事故が起きている。ダムを造り、水位を上下させれば、深刻な地すべりが発生する危険性が高い。ハッ場ダムを原案から削除することを求める。

○ 巨額の費用を要するスーパー堤防はいらない。

スーパー堤防は1kmの整備に数百億円規模の事業費を要するため、実際には「点」の整備しかできず治水対策として有効ではない。スーパー堤防を含まない整備計画を求める。

○ 首都圏氾濫区域堤防強化対策事業は高額すぎる。もっと安上りな堤防強化対策を。

進行中の首都圏氾濫区域堤防強化対策事業は、利根川・江戸川の右岸側の堤防(約70km)を拡幅する事業である。堤防の裾野を大きく広げるため、1,200戸以上の家屋の移転が必要で、完成まで長い年月を要する。また、現計画の事業費でも約2,700億円にもなる(堤防1メートル当たり約400万円)が、事業費は今後さらに膨れ上がると予想される。治水対策は最小の費用で最大の効果があり、長い年月を要しないものを選択すべき。

○ 原案の実施に必要な事業費を示し、実現性の見通しを明らかにしてほしい。

今回の原案はダム事業だけでなく、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業やスーパー堤防など、巨額の費用が必要な事業が数多く含まれており、実現性が危ぶまれる。

○ 新たな社会資本への投資が厳しくなりつつ現実を踏まえることを求める。

国土交通白書(平成21年度)には、過去につくった社会資本の維持管理・更新費が今後は次第に増加し、2037年度には投資可能額に達してしまうことが記されている。つまり、このままでは新規事業はおろか、維持管理・更新費用さえ不足してしまうのである。この現実を踏まえれば、原案のように毎年、巨額の予算をダム建設や河川改修等のために利根川に注ぎ込み続けることは不可能である。流域住民の安全を早急に確保できる治水対策を厳選し、河川予算を集中しなければ、住民は氾濫の危険性がある状態に放置されてしまう。

○ 水系全体としての河川整備計画の策定が必要。

原案は利根川・江戸川の本川のみを対象としている。しかし利根川水系には渡良瀬川、鬼怒川、霞ヶ浦など大きな支川がいくつもある。支川も含めて水系全体の河川整備計画を策定する必要がある。支川と本川は相互に関係し、特に支川の状況が本川に影響するので、本川だけの整備計画を先に策定するのは科学的見地からみておかしい。

全国の一級河川の直轄区間では72水系で河川整備計画が策定されているが、今回の原案のように、本川の河川整備計画を先に策定した水系はない。

○ 堤防強化に重点を置いた河川整備計画を。

利根川及び江戸川の本川・支川では洪水の水位上昇時に破堤する危険性がある脆弱な堤防が各所にある。浸透防止対策が必要な区間は利根川 62%、江戸川 60%に及び、破堤すれば甚大な被害をもたらす。喫緊の治水対策である脆弱な堤防強化工事を急ぐ必要がある。

○ 想定を超える洪水が襲っても壊滅的な被害を受けない対策を。

東日本大震災を踏まえ、利根川でも想定を超える洪水が襲った場合に壊滅的な被害を受けない治水対策が必要である。ダムなどの大きな河川構造施設を整備することは、巨額の予算ときわめて長い年数を要するため、治水対策として実効性に乏しい。想定を超える洪水が来ても、壊滅的な被害を防止できる現実に実施可能な対策、すなわち、越流してもすぐに決壊しない堤防(耐越水堤防)に変えていくことが必要である。

○ 安価なハイブリッド堤防技術を導入した河川整備計画を求める。

耐越水堤防は巨額の費用をかけずに堤防を強化できる技術が選択されなければならない。鋼矢板やソイルセメント連続地中壁を堤防中心部に設置するハイブリッド堤防が安価な技術であり、このような新しい技術による堤防強化工事を早急に推進することが必要である。

○ ゲリラ豪雨による内水氾濫への対策に重点を置いた整備計画を求める。

利根川流域における最近の氾濫は、ゲリラ豪雨が引き起こす内水氾濫(小河川の氾濫を含む)ばかりである。2011年9月初めにも群馬県南部で記録的な大雨があり、浸水被害があったが、これも内水氾濫であった。雨水貯留・浸透施設の設置、排水機場の強化など、内水氾濫対策に重点を置いた河川整備計画が求められている。

○ 原案の前提となっている過大な治水目標流量の引き下げを求める。

原案が前提としている治水目標流量 17,000 m³/秒は、1947年カスリーン台風洪水の再来計算 21,100 m³/秒を算出した洪水流出モデルを使って、治水安全度 1/70~1/80 に相当する流量を求めた値である。しかし、カスリーン台風洪水の実績流量は 15,000 m³/秒程度であったことが当時の建設省の資料によって明らかになっている(東京新聞特報部 2013年1月10日)。治水目標流量を科学的に計算し直して引き下げを求める。

○ 治水目標流量の議論を一方的に打ち切って原案を示すことは許されない。

昨年9月から10月に開かれた利根川・江戸川有識者会議では、原案の前提となっている治水目標流量 17,000 m³/秒(伊勢崎市八斗島)について、有識者委員より根本的な疑問が提起され、治水安全度 1/70~1/80 に対応する流量は実際には 17,000 m³/秒よりかなり小さいことが明らかになった。議論を一方的に打ち切って、科学的根拠がない治水目標流量を前提とした原案を示すことは許されない。議論の続行を求める。

○ 1997年河川法改正の本旨を踏まえ、整備計画の策定作業の民主化を求める。

河川管理者(利根川・江戸川の場合は国交省関東地方整備局)は、河川整備計画に関係住民の意見を反映させる責務がある。

河川法改正に当たり、当時の尾田栄章河川局長は国会質疑で「(関係住民の意見を)言いつ放し、聞きつ放しというのでは全く意味がない」、「河川整備計画に関係住民の皆さん方の意向が反映をしていくというふうを考えております。」と答弁している。また第2回利根川・江戸川有識者会議(2006年12月18日)では、事務局の高橋河川計画課長が「整備計画原案を示し、有識者会議、関係住民等の意見をきいて整備計画修正案をつくり、それを何回か実施して計画をつくる」と言明した。

○ 流域住民の安全を確保し、環境に配慮した整備計画を策定するため、十分な議論を。

利根川水系河川整備計画は、利根川において今後30年間に実施する河川整備の内容を定めるものであるから、流域住民の生命と財産を洪水の氾濫から守ることができ、環境にも十分に配慮したものでなければならない。流域全域について必要な調査を行った上で、それぞれの状況について知見を有する住民及び専門家の意見が反映されるよう、流域住民及び専門家を交えた議論を積み重ねていくことが必要である。

○ 生物多様性を重視した河川整備計画の策定を求める。

2010年10月に開催された第10回生物多様性条約締約国会議(名古屋)では、「2020年までに生物多様性の損失を食い止めるための行動をとることを私たちの使命(ミッション)」と位置づけて愛知ターゲットが採択され、「遅くとも2020年までに、生物多様性の価値が、国と地方の開発(略)の戦略及び計画プロセスに統合」されることなど、20項目の目標が設けられた。

○ ラムサール条約湿地候補地リストに入っている利根川下流域(神栖市高浜および周辺水田など)と霞ヶ浦・北浦を中心として、登録地に相応しい、自然に優しい河川整備計画を策定することを求める。

2011年8月24日開催の環境省の平成22年度第3回ラムサール条約湿地候補地検討会で示された候補地リストには利根川下流域(神栖市高浜および周辺水田など)と霞ヶ浦・北浦が入っており、次回以降のラムサール条約締約国会議に向けて、この二地域を登録地にする動きが出てくることが予想される

○ 利根川がラムサール条約登録地になることを目指して、登録地に相応しい、自然に優しい河川整備計画を策定することを求める。

昨年7月のラムサール条約第11回締約国会議では、渡良瀬遊水地と円山川下流域(兵庫県)がラムサール条約の登録地になった。この二つの地域は河川法による河川区域で、ラムサール条約登録地としての国内の法的担保(開発行為の抑制)が可能であるとして登録地になった。同様な考え方を当てはめれば、利根川をラムサール条約登録地にすることは可能である。

○ 過去の開発で失われた自然を取り戻し、自然に新たな負荷をかけない整備計画を。

利根川水系では過去のダム建設、河口堰建設、霞ヶ浦開発といった開発事業によって、自然が大きなダメージを受けてきた。

兵庫県の円山川では、今年2月5日まで河川整備計画原案のパブコメが行われた。円山川の下流域は昨年7月のラムサール条約第11回締約国会議で登録地になり、これを踏まえて自然の回復を目指した原案が提示された。原案には「川の営力による自然の復元力を活かしつつ、河川環境の整備を行い、過去に損なわれた湿地や環境遷移帯等の良好な河川環境の保全・再生を図る」、「水域から山裾までの河床形状をなだらかにして、山から河川の連続性を保全する」、「本川と支川・水路との間の落差を解消し、生物の移動可能範囲の拡大を図る」ことなどが記されている。http://www.maruyama-iinkai.com/pdf/17_No18siryo2-2_genan.pdf

利根川水系においても自然の回復を目指した河川整備計画の策定が求められている。

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 群馬県	(市区町村名) 吾妻郡草津町	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		「全体について」	

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[REDACTED]	
②住所		(都道府県名) 東京都	(市区町村名) 多摩市 [REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
④年代	60歳以上	⑤性別	男性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>(全体について意見を述べます。)</p> <p>(1)首都圏の水需要は明らかに減少をしている。よって都市用水開発が主目的の八ツ場ダムは不用である。 東京都の水道は1992～2012年度迄の20年間で約150万m³/日減少している。水余りである。今後人口減少傾向で八ツ場ダムは必要なし。</p> <p>(2)八ツ場ダムは治水効果が希薄。八ツ場ダムを含まない河川整備計画を求める。 仮に八ツ場ダムが有ったとしても、カスリン台風の時効果がゼロであった事は国交省の資料で明らかである。又、八斗島地点の水位低減効果は13センチしかなく利根川治水対策として八ツ場ダムは意味がない。</p> <p>(3)八ツ場ダム予定地は地質が脆弱で、ダム建造で地滑りを誘発する危険が大きい。 予定地は、今迄も地滑りや崩落事故を起こしている。更にダム水位を上下させる八ツ場ダムは危険が大で八ツ場ダムは計画から削除を求める。</p> <p>(4)巨額なスーパー堤防はいらない。 1キロメートル当り数百億のスーパー堤防は「点」での整備しか出来ず全くの無駄である。</p> <p>(5)水系全体の河川整備計画の策定が必要。 原案は利根川、江戸川の本流のみを対称にしている全体河川整備計画ではない。渡良瀬川、鬼怒川、霞ヶ浦等の大きな支川を入れた河川の全体整備計画にすべきで、基本が全く出来ていない。全国の一級河川72水系で整備計画が策定されているが今回の原案の様に本川の整備計画を先に策定した水系はない。支川と本川は相互に関係している。</p> <p>(6)堤防強化に重点を置いた河川整備計画を。 利根川及び江戸川の本川・支川では洪水の水位上昇時に破堤する危険性がある脆弱な堤防が各所にある。浸透防止対策が必要な区間は利根川62%、江戸川60%に及び、破堤すれば甚大な被害をもたらす。喫緊の治水対策である脆弱な堤防強化工事を急ぐ必要がある。</p> <p>(7) 想定を超える洪水が襲っても壊滅的な被害を受けない対策を。 東日本大震災を踏まえ、利根川でも想定を超える洪水が襲った場合に壊滅的な被害を受けない治水対策が必要である。ダムなどの大きな河川構造施設を整備す</p>	

ることは、巨額の予算ときわめて長い年数を要するため、治水対策として実効性に乏しい。想定を超える洪水が来ても、壊滅的な被害を防止できる現実に実施可能な対策、すなわち、越流してもすぐに決壊しない堤防（耐越水堤防）に変えていくことが必要である。

(8) 安価なハイブリッド堤防技術を導入した河川整備計画を求める。

耐越水堤防は巨額の費用をかけずに堤防を強化できる技術が選択されなければならない。鋼矢板やソイルセメント連続地中壁を堤防中心部に設置するハイブリッド堤防が安価な技術であり、このような新しい技術による堤防強化工事を早急に推進することが必要である。

(9) ゲリラ豪雨による内水氾濫への対策に重点を置いた整備計画を求める。

利根川流域における最近の氾濫は、ゲリラ豪雨が引き起こす内水氾濫(小河川の氾濫を含む)ばかりである。2011年9月初めにも群馬県南郎で記録的な大雨があり、浸水被害があったが、これも内水氾濫であった。雨水貯留・浸透施設の設置、排水機構の強化など、内水氾濫対策に重点を置いた河川整備計画が求められている。

(10) 原案の前提となっている過大な治水目標流量の引き下げを求める。

原案が前提としている治水目標流量 17,000 m³/秒は、1947年カスリーン台風洪水の再来計算 21,000 m³/秒を算出した洪水流出モデルを使って、治水安全度 1/70～1/80 に相当する流量を求めた値である。しかし、カスリーン台風洪水の実績流量は 15,000 m³/秒程度であったことが当時の建設省の資料によって明らかになっている(東京新聞報道部 2013年1月10日)。治水目標流量を科学的に計算し直して引き下げることを求める。

(11) 治水目標流量の議論を一方向的に打ち切って原案を示すことは許されない。

昨年9月から10月に開かれ利根川・江戸川有識者会議では、原案の前提となっている治水流量目標 17,000 m³/秒(伊勢崎市八斗島)について、有識者委員より根本的な疑問が提起され、治水安全度/1/70～1/80 で対応する流量は実際には 17,000 m³/秒よりかなり小さいことが明らかになった。議論を一方向的に打ち切って、科学的根拠がない治水目標流量を前提とした原案を示すことは許されない。議論の続行を求める。

(12) 1997年河川法改正の本旨を踏まえ、整備計画の策定作業の民主化を求める。

河川管理者(利根川・江戸川の場合は国交省関東地方整備局)は、河川整備計画に関係住民の意見を反映させる責務がある。河川法改正に当たり、当時の尾田栄章河川局長は国会質疑で「(関係住民の意見を)云いつ放し、聞きつ放しというのでは全く意味がない」、「河川整備計画に関係住民の皆さん方の意向が反映をしていくというふうに考えております。」と答弁している。また第2回利根川・江戸川有識者会議(2006年12月18日)では、事務局の高橋河川計画課長が「整備計画原案を示し、有識者会議、関係住民等の意見をきいて整備計画修正案をつくり、それを何回か実施して計画をつくる」と言明した。

(13) 流域住民の安全を確保し、環境に配慮した整備計画を策定するため、十分な議論を。

利根川水系河川整備計画は、利根川において今後30年間に実施する河川整備

の内容を定めるものであるから、流域住民の生命と財産を洪水の氾濫から守ることができ、環境にも十分に配慮したものでなければならない。流域全域について必要な調査を行った上で、それぞれの状況について知見を有する住民及び専門家の意見が反映されるよう、流域住民及び専門家を交えた議論を積み重ねていくことが必要である。

(14) 生物多様性を重視した河川整備計画の策定を求める。

2010年10月に開催された第10回生物多様性条約締約国会議(名古屋)では、「2020年までに生物多様性の損失を食い止めるための行動をとることを私たちの使命(ミッション)」と位置づけて愛知ターゲットが採択され、「遅くとも2020年までに、生物多様性の価値が国と地方の開発(略)の戦略及び計画プロセスに統合」されることなど、20項の目標が設けられた。

(15) ラムサール条約湿地候補地リストに入っている利根川下流域(神栖市高浜および周辺水田など)と霞ヶ浦・北浦を中心として、登録地に相応しい、自然に優しい河川整備計画を策定することを求める。

2011年8月24日開催の環境省の平成22年度第3回ラムサール条約湿地候補地検討会で示された候補地リストには利根川下流域(神栖市本高浜および周辺水田など)と霞ヶ浦・北浦が入っており、次回以降のラムサール条約締約国会議に向けて、この二地域を登録地にする動きが出てくることが予想される。

(16) 利根川がラムサール条約登録地になることを目指して、登録地に相応しい、自然に優しい河川整備計画を策定することを求める。

昨年7月のラムサール条約第11回締約国会議では、渡良瀬遊水地と円山川下流域(兵庫県)がラムサール条約の登録地になった。この二つの地域は河川法による河川区域で、ラムサール条約登録地としての国内の法的担保(開発行為の抑制)が可能であるとして登録地になった。同様な考え方を当てはめれば利根川をラムサール条約登録地にすることは可能である。

(17) 過去の開発で失われた自然を取り戻し、自然に新たな負荷をかけない整備計画を。

利根川水系では過去のダム建設、河口堰建設、霞ヶ浦開発といった開発事業によって、自然が大きなダメージを受けてきた。兵庫県の円山川では、今年2月5日まで河川整備計画原案のパブコメが行われた。円山川の下流域は昨年7月のラムサール条約第11回締約国会議で登録地になり、これを踏まえて自然の回復を目指した原案が提示された。原案には「川の営力による自然の復元力を活かしつつ、河川環境の整備を行い、過去に損なわれた湿地や環境遷移帯等の良好な河川環境の保全・再生を図る」、「水域から山裾までの河床形状をなだらかにして、山から河川の連続性を保全する」、「本川と支川・水路との間の落差を解消し、生物の移動可能範囲の拡大を図る」ことなどが記されている。

利根川水系においても自然の回復を目指した河川整備計画の策定が求められている。

-以上-

平成25年2月28日(木)

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 大阪	(市区町村名) 箕面市	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性 女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	頁		
(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)			
<p>八つ場ダム全体について</p> <p>国交省の計画は60年も前のアイデアを一步も出していないただ単に力づくで計画を実現させると言うもの。一方住民の方は最初の計画大反対から、時間、金をかけ一人又一人と、引き抜く官僚の大作戦に力負けして現在賛成派が多いと、いつものやり口に根負けした状況だ。</p> <p>充分調査したからダムは、絶対崩れたりはしないと言う。充分強くしたから原発は大丈夫だとして造った福島の間図だ。</p> <p>2011年11月7日毎日新聞、「核心」での、利根川、江戸川有識者会議座長の宮村忠氏の論文は有識者がこの程度の認識かと驚く内容だった。</p> <p>一言で言えば、造ることに意味があつて、それ以外（例えば、この島国の僅かな自然の形を如何に守るか）などおよそ次世代から将来に亘る考察が一つも無い。</p> <p>住民は断腸の思いで（国がそうさせて置きながら）水没予定地から移転した、60年間で議論し尽くした、等等乱暴な話続出。</p> <p>河川は専門でしょうが、それを越えた自然科学全体に目が向かないのでしょうか。</p>			

(別添：意見提出様式)

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方―「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について―』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 千葉県	(市区町村名) 佐倉市	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにご記入いただける200字以内で記載して下さい)			
<p>ハツ場ダムの話が来た頃より、私はずっと反対していました。</p> <p>あの場所には地質が脆弱で地割れや崩落と重なり続けるとも多額のお金をつぎこむだけ損だと思えます。</p> <p>今ダムが来ても利根川の治水対策上、殆ど意味のないもの。どうしてこうも何十年もかけて固執するのか、私には理解できません。</p> <p>今後投入したお金がもたらすというのであっても、これから巨額の資金を投入意味が全くない。堤防強化するのであれば、スーパー堤防はせめて安価なものでしてほしいです。</p>			

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 群馬県	(市区町村名) 伊勢崎市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input checked="" type="checkbox"/>
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>水系全体の河川整備計画の策定作業を進めてほしい。(他に支川がいっぱいある)</p> <p>治水目標流量(もう一度調べ直してほしい)引き下げを求めます。</p> <p>ハツ場ダムの件は大変お苦しく永い間難問であった事を考えればもっと身近な事例を見直し作つてからで良かったのではなか？ 余分なお金を使い地区の人達の水害のつらさを思うともう少し必要か…が 思案の元案と思えるが…</p> <p>利根川流域はとても環境の良い地域で、野鳥や魚等が住み良い場所なので自然は回復を早急に望み河川整備計画の策定作業を進めてほしい。</p>	

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[Redacted]	
②住所		(都道府県名) 東京都	(市区町村名) 小平市 [Redacted]
③電話番号又はFAX		[Redacted]	
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別 男性・女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>①首都圏の水需要は減少の一途を辿っており、今後もこの減少傾向は続き、八ッ場ダム的重要性が打たれ失われていくので、八ッ場ダムを利根川の河川整備計画原案から削除する事を求めます。</p> <p>人口の減少と、節水型機器の普及などで、減少傾向はこれ以上続いていくと思われ、又治水面の必要性も薄いため八ッ場ダムを利根川の河川整備計画原案から削除する事を求めます。</p> <p>②八ッ場ダム予定地は地質が脆弱で、ダムを造れば地すべりを誘発する危険性が高いため、八ッ場ダムを利根川の原案から削除していただきたい。</p> <p>ダムを造り水位を上下させれば深刻な地すべりが発生する危険性が高い。その上地震や火山の噴火も考慮すれば絶対に造るべきではないと考えます。</p> <p>③利根川がラムサール条約登録地になることを目指して登録地に相応しい、自然に優しい河川整備計画を策定することを求めます。</p> <p>出来る限り、自然の川、くねくねと曲り、コンクリートを使わない自然の川であってほしいものです。</p> <p>私意見 造るものは何十年〜で壊れてしまう、ダムも(砂か石で溢るとは)、真の遺産と人口の減少後の人々に、もたて買わせない、今の責方おのりる事残らねえん</p>	

「利根川・江戸川河川整備計画(原案)意見募集事務(意見提出様式)」
 「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画(原案)」に対する意見

①氏名	[Redacted]		
②住所	(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) 戸沢市	[Redacted]
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>私は、なくとも公害・水環境の「公害・地球憲」のボランティアの一員として活動しています。また、埼玉の一市民で、身をけづってハッ場ダムのために税金を払わされています。そんな生活の中で、ハッ場ダムに2回現場調査もしています。その立場から、「流域住民の命と暮らしを守り、環境を破壊しないために」「利根川・河川整備計画」に、ハッ場ダムを組み込まない計画の策定を求めます。</p> <p>理由</p> <p>1 首都圏の水需要は減少し、都市用水の供給が主目的のハッ場ダムはいらぬ。</p> <p>首都圏の水需要は減少の一途を辿っています。一人当たりの給水量が減ってきたからです。今後は人口が首都圏でも減少傾向に変わるので、ハッ場ダムの必要性はますますなくなります。</p> <p>2 ハッ場ダム予定地は地質が脆弱で、ダムを作れば地すべりを誘発する危険性が高い。</p> <p>ハッ場ダム予定地は地質が脆弱で、現地調査でもだれの目にも分かる通り、あっちこっちから水が吹き出ており、それを溜める施設が必要で、現にこれまでも地すべりや崩落事故が起きています。ダムを作り、水位を上下させれば、深刻な地すべりが発生する危険性が高いです。ハッ場ダムを原案から削除してください。</p>	
		2013年3月1日(金)午後1時40分	

[/]

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[REDACTED]		
②住所		(都道府県名) 東京都	(市区町村名) 江戸川区	
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]		
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input checked="" type="checkbox"/>
意見該当箇所		⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)		
章	頁			
		<p>① 緊急を要する現在、時間も経費もかかるスーパー堤防に疑問を感じる。</p> <p>② スーパー堤防は40年以上前に計画されたもので、住宅事情、交通事情が変化している。多くの地元住民の生活を脅かす、負担を強いる。他の方法があると思われる。</p> <p>③ 利根川の流量が過大評価されている事がわかり、スーパー堤防は不要である。又盛り土は液状化する事が東日本震災で方で立証された。</p> <p>以上によりスーパー堤防には反対します。</p>		

[/]

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[REDACTED]			
②住所		(都道府県名) 山梨県	(市区町村名) 甲府市		
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]			
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上		⑤性別	男性・女性
意見該当箇所		⑥ご意見			
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)			
全	体	<p>利根川及びその周辺支流を含む水系は、これまでダム建設をはじめとする大規模開発により、自然破壊が進んで汚染を呈している。河川の水の量は減り、魚などの生態系も、よわめて貧弱になっている。</p> <p>これからは、河川にコンクリートの構造物を、ひきよだけ打ち込まず、また既設のものについては、ひきよだけ撤去する方向で考えるべきである。</p> <p>利根川水系にふんば、自然回復を基調とした河川整備計画を策定すべきであり、ハコ場ダムなどは、建設を中止すべきである。</p>			

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 千葉県	(市区町村名) 佐倉市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・ <u>40代</u> ・50代・60歳以上	⑤性別	男性・ <u>女性</u>
意見該当箇所	⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)		
章	頁		
全体について		<p>今日の国交省の原案提示までの進め方はあまりにも乱暴です。</p> <p>河川法に定められた流域住民の意見反映や環境の視点が完全に無視されています。</p> <p>ハツ場ダム本体工事着工にむけて、本川だけが対象にした計画と先に策定するのは、科学的見地からもおかしいです。</p> <p>流域住民の命・財産を真に守るためには、実効性がないダムではなく堤防強化に税金投入すべきです。将来的なインフラ整備のための財源が厳しいうえに、無駄で危険かつ実現性のない今回の原案に強く抗議し、反対します。</p>	

[1 / 1]

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 茨城県	(市区町村名) 茨城町	
③電話番号又はメールアドレス	電話番号： [REDACTED] メールアドレス： [REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)		
章	頁		
		<p>1. 「水余り」を議論せず、利水からみても無駄な事業 「有識者会議」では各都県の最新の「水需給計画」を議論しなかった。茨城県では現行マスタープラン改定期が過ぎたのに、改定せず人口減少や水余りを折り込まないプランが資料となった。他の都県も同様と思われ、「水余り」を検討しない本事業計画は空論である。</p> <p>2. 目標流量 17,000 m³/秒は根拠なく、過大 治水の要のデータ「目標流量 17,000 m³/秒」はとうとう根拠のないまま本事業計画の根拠とされた。有識者会議でも森林保水力の増加や有力な反論根拠で異論が出されているのに、議論なく長期休会をはさんで突如その目標流量の原案が提示された。本事業計画はパブコメに付す原案たりえない。</p> <p>3. 厳しい財政状況をまったく無視 ハッ場ダム建設に伴う県負担金は極めて多額であり、茨城県は毎年二桁億円を払い続け、今年度は7億円余、新年度は5億円余の負担である。厳しい県財政のため「中度障害者手当」など県単独事業が次々にカットされてきた。県水供給水道料金は関東一である。税金の無駄遣いを県民にしわ寄せしてはならない。</p>	

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 茨城県	(市区町村名) 牛久市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見 (意見ごとにてできるだけ200字以内で記載してください)		
章	頁		
		<p>○ 国の財政が逼迫しているのですから、お金をかけない河川整備計画の実現を切に望みます。治水利水に対する基本方針を見直して、無駄な出費を省いて下さい、過去の開発で失われた自然を取り戻し、自然に新たな負荷をかけない整備計画をお願いします。</p> <p>・利根川水系では、過去半世紀におけるダム建設、河口堰建設、常陸川水門建設といった開発を優先する事業によって、自然界における生物多様性や古来からの人の生業である漁業などに大きなダメージを与えてきました。このまま開発優先で自然が破壊され続けると、人間の生存さえ危ぶまれることは皆様ご存知のとおりです。現在生きている人間の責任として、基本計画の基本方針を見直し、開発優先から自然と共存できるための河川整備計画の策定をお願い致します。</p> <p>・具体的には 無駄なダム建設をやめていただきたい。 スーパー堤防は必要ないではありませんか。</p>	